

令和4年度(第77回)文化庁芸術祭
テレビ・ドキュメンタリー部門で優秀賞受賞!
東海テレビ制作のドキュメンタリー
はだかのER
救命救急の砦2021-2022

文化庁は26日、令和4年度の芸術祭賞を発表。東海テレビ制作のドキュメンタリー『はだかのER 救命救急の砦2021-2022』(令和4年11月21日放送)が、テレビ・ドキュメンタリー部門の優秀賞に選ばれました。

東海テレビの芸術祭賞受賞は、ドキュメンタリー『人生フルーツ ある建築家と雑木林の物語』(平成28年度テレビ・ドキュメンタリー部門・大賞)以来6年ぶりとなります。

文化庁芸術祭は、広く一般に優れた芸術作品を鑑賞する機会を提供するとともに、芸術の創造と発展を図り、文化の向上と振興に資することを目的とし、昭和21年から毎年実施されています。

今年はテレビ・ドキュメンタリー部門に43作品が参加、「高い独創性や企画性など」を基準に審査が行われ、大賞1作品と、優秀賞3作品が選ばれました。

『はだかのER 救命救急の砦2021-2022』の受賞理由について審査員は、「撮影された映像には現場の様々な情報が含まれている。これをナレーションによって一義的にしないことで、現場のダイナミズムやリアリティを賦活させた。日本のテレビドキュメンタリーの映像表現を一步先に進めた作品である」とコメントしています。

今回、優秀賞に選ばれたことについて、制作を担当した足立 拓朗ディレクターは「救急を舞台にしたドラマで描かれる華々しい姿とは違い、ひたすら、ひたむきに、目の前の命と向き合い続けるERは、あまりにも尊い姿でした。ERは今も最前線で闘い続けていますが、withコロナの先に、何か残されるものがあるのか…。今回の賞を頂き、その姿と未来にスポットライトがあたることを、何よりも嬉しく思います。」と、コメントしました。



写真)名古屋掖済会病院

「はだかのER 救命救急の砦2021-2022」

放送日 2022/11/21(月) 24:45 ~ 26:25

番組内容

<見出し>

名古屋掖済会病院(中川区)の救命救急センター「ER」。“断らない救急”を掲げ、日々搬送される救急患者に対応する医師らを取材した。

<番組内容>

令和の今も下町の名残を残す名古屋市中川区。診療科36、およそ600床の総合病院・名古屋掖済会病院の一角に東海地方初の救命救急センター、通称「ER」がある。

これまで、“断らない救急”をモットーに、軽いケガから骨折、急な心不全に脳梗塞まで、年間約1万台以上の救急車を受け入れてきた。

24時間365日、命を救うために奮闘する医師たち。しかし、新型コロナの影響により、ベッドは日に日に埋まっていく。

そして…救急医療の現場で今、何が起きているのか…ERにカメラを入れ長期取材した。

スタッフ

プロデューサー: 阿武野勝彦(東海テレビ)

土方宏史(東海テレビ)

ディレクター: 足立拓朗(東海テレビ)

編集: 高見順(東海テレビプロダクション)

撮影: 村田敦崇(東海テレビプロダクション)

音声: 栗栖睦巳(東海テレビプロダクション)

音楽プロデューサー: 岡田こずえ

音楽: 和田貴史

制作著作: 東海テレビ



写真) 名古屋掖済会病院の医療現場

以上